



推定樹齢400年のイチヨウ

入口近くには、推定樹齢400年のイチヨウがそびえ立つ。12月初旬の黄葉の季節には、馬車廻しを黄金色の絨毯が埋め尽くす。幹周はなんと7.4m!



巨大灯籠

和洋併置式で造られた庭園で、身長の数倍ほどの灯籠を発見。関東大震災や東京大空襲の際には、広大な敷地が避難所として開放され、炊き出しなども行われた。



御抹茶席

和館には、お抹茶セットなどがいただける御抹茶席も。洋館と撞球室の壁紙を復元した「金唐革紙のしおり」や、岩崎家が経営する小岩井農場にちなんだ商品も販売されている。

旧岩崎邸庭園

- 所在地／東京都台東区池之端1丁目
- 最寄駅／東京メトロ千代田線「湯島」より徒歩3分、東京メトロ銀座線「上野広小路」より徒歩10分、都営地下鉄大江戸線「上野御徒町」より徒歩10分、JR山手線・京浜東北線「御徒町」より徒歩15分
- 開園時間／午前9時～午後5時(入園は午後4時30分まで)
※イベントなどで時間延長が行われる場合もあります。
- 休園日／年末年始(12月29日～翌年1月1日)
- 入園料／一般 400円 / 65歳以上 200円 / 小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料
※身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳または療育手帳持参の方と付添の方は無料



大階段は支柱のない珍しい構造。手前の柱は細い木を桶のように輪にして作っている



床の間や襖には、明治を代表する日本画家・橋本雅邦が下絵を描いたと伝えられる障壁画も。



男性用と女性用とに分けられた客室。男女で壁紙の色が異なる



貴重な金唐革紙の壁紙が貼られた客室は、実にきらびやか

異国情緒漂う都会のオアシス

東京・上野の不忍池から5分とかならない場所に、ひっそりと佇む都会のオアシスがあることをご存じでしょうか。鹿鳴館の建築家として有名な英国人ジョサイア・コンドルによって建てられた、三菱財閥岩崎家(※1)の本邸です。岩崎家の邸宅と言えば、清澄庭園と六義園がよく知られていますが、

ここ旧岩崎邸庭園は2003年から通年公開を始めた比較的新しいスポット。今回は、旧岩崎邸庭園サービスマンセンター長の江頭朋子さんと共に、日本の建築史に残るこの洋館をご案内します。



シニアライフ・コンシェルジュが案内する

都内の名処



時の風が吹く庭園

CHAPTER 1

旧岩崎邸庭園



藤野政史

グローバルライフ株式会社
代表取締役
シニアライフ・コンシェルジュ
シニア世代の皆さまが楽しく、笑顔で、遊び、学ぶ、集う会「グローバルライフクラブ」を運営。

提携施設を募集中

グローバルライフクラブ 検索

東京に観光名所は数あれど、あまり知られていない穴場スポットは数多く存在します。そんな「都内の名処」を、シニアライフ・コンシェルジュ藤野政史がご案内します。今月は、東京は上野恩賜公園近くにある「旧岩崎邸庭園」に出掛けてみましょう。

いざ、世界有数の邸宅内へ

敷地に入ると、馬車廻しに立つシユロの木と、西洋木造建築の異国情緒漂う組み合わせが目を引きます。

「明治29年に邸宅が完成した当時は、1万5千坪の敷地に20棟以上の建物がありましたが、現在はその3分の1の敷地となり、広々とした庭園と、国の重要文化財に指定された3棟の建築物を残すのみです。そのうち1棟が2階建・地下室付きの洋館で、明治期の上層階級の邸宅を代表する西洋木造建築となっています。」と江頭さんが教えてくれました。

見学は、邸宅のメインとなるこの「洋館」からスタート。建物は17世紀の英国ジャコビアン様式を基調に、ルネサンスやイスラム風のモチーフが採り入れられていて、実に見事。コンドルのこだわりが詰まった淡い色合いのステンドグラスが飾られた玄関をくぐり、靴を脱いで、建物の中に入ってみることにしましょう。

そして、当時は男性しか入れなかったという撞球室(ビリヤード場)に移動。明治期の日本では珍しいスイスの山小屋風の撞球室は、驚くべきことに洋館から地下通路でつながっているそう。地下通路は通常非公開ですが、毎月第2木曜日の午前10時30分からのツアー(無料)に参加すれば見ることがができます。また、毎日午前11時と午後2時から行われている「無料庭園ガイド」でも、この地下通路を見ることがができます(※2)。ガイドさんの話に耳を傾けながらの見学は、よりいっそう当時の様子がよみがえってくるに違いありません。

※2 撞球室ガイド・無料庭園ガイドは8月中は休止となります

※1 岩崎彌太郎(やたらう)の長男、三菱第3代目社長の久彌(ひさや)